

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373500374		
法人名	福田農機株式会社		
事業所名	グループホーム福福		
所在地	岡山県苫田郡鏡野町古川534		
自己評価作成日	平成26年1月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3373500374-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成26年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の加齢等に伴い、徐々に重度化が進んでいますが、食事の準備や洗濯物たみなど、入居者一人ひとりに応じた能力が発揮できる場をつくり、“和”を大切に、日々活気のある生活が過ごせるよう支援しています。一人ひとりのペースを把握し、穏やかに安心して過ごしていただけるよう、“寄り添う”ことを主に、全職員日々精進しています。

田んぼや畑が多く、安心して生活することができる恵まれた環境であり、近所の方々にも暖かく見守っていただいています。近くに保育園があり、よく園児の皆さんが訪問してくれますし、こちらからお遊戯会や運動会の観戦をさせていただきました。また、南小学校の児童の皆さんも訪問してくれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今回の外部評価で訪問して一番のニュースは“107歳の女性がお元気で暮らしている”ことである。この年齢になっても、9人のユニットのリーダーシップと言う存在であることに重宝感があり、高齢化社会の中で100歳という年齢は珍しい事ではなくなったけれど、まだまだ長寿を続ける可能性を楽しみにしたい所である。このホームとユニット名が「福福」、このホームを踏み台として元気で楽しく生き続けて頂きたいと願う。因みに次に100歳の方もいてお目出度づくしである。2年前管理者に就任して間もない男性に会ってから2年経って再び会って感じたことは、ホーム全体を見ているホーム長として成長した存在を感じた。2つのユニットを建物で継いでしまった改装は、ホームの機能を倍加したと思う。オーナーの社長を説得したのだろうと思った。この増設した空間の機能は職員にとっても利用者にとっても大きな効果を生んだと思う。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より、地域と共に暮らす事業所作りを大切に、理念を作りました。 理念は、事業所の玄関と、職員タイムレコーダーの前に掲げ、日々業務に入っています。	毎年度に短期、中期、長期目標を作成し、職員の意識を鼓舞している。職員の交代もある中で、管理者として5年目の節目に当たり、2ユニットの責任者の立場に立ち、自らを「初心忘れず」と律し、職員をよくまとめている。リビングではムードメーカーの利用者が、利用者同士の和をしっかりとつなぎ、それを職員が上手に取り持っている。100歳、107歳、重度・軽度者と混在する利用者をよく見守り、明るさと笑顔があふれていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設当初より、地域の皆様には大変お世話になっています。 日頃の挨拶・会話や、地域住民の方にホームの行事への招待を行っています。 また、地域の行事等にも参加させていただいています。	地元の保育園、小学校との交流は深く、定着している。保育園とホームは向かい道なので、散歩の途中で107歳の利用者は園児に元気を与えている間柄でもある。2年に1回のホーム祭は、運営推進委員会を通じ演芸ボラや地域住民の参加が広がっている。本社がこの地域の中にあり、今年にホーム開設10年を迎えるに当たり、「この地域に育てて貰った」と聞くことができた	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月発行する「福福だより」で、ホーム内の様子・行事等を報告させていただいています。 入居者様と職員で近隣地域(30軒)に配布して、ふれあいを深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	できるだけ多くの方に知っていただくため、幅広く出席していただき、「開かれた施設」として理解をさせていただいています。 会議後は、ホーム内の生活とふれあいを大切に、行事を盛り込む構成も考えています。	メンバーは、行政、包括センター、民生、愛育、老人会、町会議員、利用者、家族と多彩であり、情報交換と重要案件に関しては再三協議する等、活発に開催されている。ホームの行事に組み込んで開催し、多くの部外者参加を呼び掛け、ホームへの理解と触れ合いを大切にしていきたい方針を持っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町福祉課の職員さんも、よくして下さるので、困った時・疑問に思った時は遠慮なく相談させていただいています。	包括支援センターは毎月研修会を開催して職員の資質向上に寄与し、又、終末期ケアの場においてもホームと家族の立場に立ち、よきアドバイスをしている。両者の協力で困難家族の支援を行った事例もある。社長は、町その他職種が共同して取り組む福祉施策検討会に協力していく方針である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員「身体拘束はしない」ということの実践に取り組んでいます。夜間は防犯のため施錠を行いますが、日中は鍵を掛けず、いつでも出入りができるようにしています。	職員の気持のあり方で対処できるものと理解しており、言葉遣いやケアのあらゆる場面で尊厳を持つことを全職員が認識を持ち、実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケアがないかどうか、毎月のカンファレンス時に確認しています。 管理者は、虐待のような言動がないか見守って、万が一発見した場合は、適切な指導をするよう心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社外研修に参加し、勉強しています。 全職員がそのことについて、周知徹底できるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・重要事項説明時、詳細に分かりやすく説明させていただいています。 また、入居後の生活について、疑問点等あれば、その都度、相談に応じています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様・御家族からの申し出に対して、柔軟に対応しています。 玄関に”ご意見箱”を設置しています。 御家族が本社に来店され、困ったこと・ご要望等をお話されることあり、前向きに受け止めています。	利用者は全員家族に恵まれており、月1回以上は来訪出来ているので、この機会を大切に話し合いを行っている。毎月の便りで日常の暮らしを報告し、運営推進会議席上でも意見を述べやすいアプローチを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各棟の管理者及び代表者は、ミーティング時や個別に、相談・提案を聞く時間を設け、話し合いを十分実施しています。	当初2ユニット間は玄関を出て往來していたところを、職員の提案により、事務室を拡張し両棟を内側からつないだ。この画期的ともいえる通路の増設は、両棟の利用者の交流促進に大きな成果を果たしている。又、リビングに面して花壇を作り利用者の目を楽しませている。職員の意見、提案はよく反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	“和”を大切にし、各職員が向上心を持ってやりがいのある職場環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内・社外研修を取り入れ、職員の自己研磨を積んでもらうことと、資格取得しやすい職場作りに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内外のGH等との交流を行い、“井の中の蛙”にならないよう、職員の意見・情報交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、本人の不安を最小限にするよう、家族からの情報を元に行うことが多いです。事前に自宅等を訪問し、本人といろいろお話し、信頼関係がスムーズに構築できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時前に、十分家族と話し合い、本人がホームで安心して生活できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の心身の状況・生活歴や、現在のお気持ち等を把握し、それを職員が共有し、気持ちを1つにして初期対応の努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、各利用者は共に暮らす”家族の一人”であることを自覚し、”和”を図っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族とケアの方針を共有し、来所時又は電話等で意見を聴きながら、本人と家族との関係を大切にしています。 入居者様自ら電話等されています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の自宅・懐かしい地域に、ドライブを兼ねて時折お連れしています。 身内の方からの手紙や、旧友との再会等、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めています。	利用者は地域の人が多く、利用者同士の会話にも地区名が飛び交い、話題に事欠かない日常のようである。又、両棟に馴染みの関係者があり、新設の通路を通り、互いの交流が更に実現しやすくなったと喜ばれている。又、毎月のホームだよりで日常の暮らしの様子に手紙を添えて発信し、家族との関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の席は本人・職員の希望等を組み入れながら決めていきます。 難聴等で他者とのコミュニケーションが難しい方には、職員が間に入ったり、しっかり声掛けする等、孤立しないよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の方で、他施設等に移られた方等には、機会があれば訪ねています。 また、御家族に会う機会があれば、現在のご様子等をお尋ねします。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの”思い”を尊重しています。居室等で本人の思いをしっかりと聴かせていただくこともあり、可能なことは即対応しています。朝礼・カンファレンスで情報共有しています。	107歳の女性利用者は、リンとした風格の中にも移ろいやすい心情をのぞかせる場面もあった。その思いを的確に受け止める職員の対応により、107歳はしなやかに机をたたきながら笑顔で鼻歌を歌っていた。分厚い童話集を音読で読破されるそう。この現場を拝見して、ホームに在籍している100歳と107歳の利用者を含め、全利用者の思いをよく把握出来ていると確信した。	グループホームでの生活満足度を利用者に体感してもらえることが一番のケアマネジメントだと思うので、その第一歩として、利用者の真の心をどのように洞察できるかと思う。そこで18人だけの利用者の希望や願いあるいは苦しみをしっかり掴む方向でマネジメントをしていってほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の本人との会話の中で聞き取ったり、アセスメントを行い、本人の状況を把握できるよう努めています。 また、ご家族からの情報を得るようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、観察・記録し、状態を把握しています。其の中で、その人が有する力等が発揮できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時は、当ホームに慣れていただくことを主とした暫定プランを作成し、2～3週間後、本人・家族と話し合った内容を元に、本プランを作成。 原則、最初は3ヶ月後、その後は6ヶ月ごとにモニタリング・アセスメントを行い、本人の心身の変化、残存能力の確認等を行い、本人の生活支援に即した介護計画が作成できるよう努めています。本人・家族には、その都度意見を求めています。	職員の担当制を敷き、介護日誌、カンファレンスを1ヶ月毎ケアマネがまとめてプランに反映させている。日常記録の様式を簡潔に改善する等して、より良い作成に努めている。今少し個々の現状を見直し、下肢筋力低下現状をプランニングすることや本人、家族の意向をケアプランに明記し、利用者本位のプランになることを期待したい。	ケアプランは一人ひとりの生活で最も効果的なケアに絞り、単純なプランで進めていけるようケアシステムを考えることを別に提案してみたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の実践や気づき・本人の発言等は、日常記録に記録し、職員間で情報を共有しています。 それを元に、カンファレンス時で話し合い、介護計画を見直す資料となっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	”GHだからこそ出来る”ことを大切にしていますが、時間と人手の問題で実現できていないことがあるのも事実です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしの支えが、地域から盛立て、馴染みでかつ穏やかな生活を実現できるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医を大切にしています。受診時は、原則、家族に同行していただいています。	二つの提携医と専門歯科医との提携がある。二週に1回の往診がある。必要に応じて、提携医が協力病院への照会手続き等を行い、提携医と協力病院の連携が強力なので、利用者、家族、ホームは安心できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	近くの訪問看護ステーションと医療連携を採っています。 “4回/月”の訪問時と、必要時にいつでも連絡し相談できる体制をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院期間中は、担当の看護師やMSWと連絡を取り合い、早期に退院できるようにしています。 また、管理者が定期的に地域の病院に出向き、病院関係者と話をしたり等、関係が途切れないよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期のあり方は、入居時に、当ホームで「出来ること 出来ないこと」の説明を行っています。入居者様に重度化・終末期が予想される場合には、早期に本人・家族等と話し合いをし、医師等医療関係者や地域包括支援センター等と連携を持ちつつ、可能な限りホームでの生活支援をさせていただいています。しかし、当ホームで、対応困難の場合は、本人・家族等にしっかり話し合いを持った上で、他施設や医療機関等への転居をお願いする場合があります。	ホームの方針として医療、家族、包括支援センター等と連携を図りながら、本人、家族にとって最善の方向を話し合いながら、現時点で出来ることを取り組んでいる。最近では家族の希望で、食事が摂れなくなるギリギリまでホームで対応し、医師の指示により入院して1週間目に死亡され、家族から感謝された事例があった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを備えています。 初期対応の訓練も定期的実施しています。応急手当についても、講習会を定期的に行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを備えています。 防火管理者・消防関係者を中心に、近所の方々にもお願いして、避難訓練等を年2回実施しています。	旭川水系からの水害を想定し、避難場所を設定する等、防災対策は運営推進会議の中でもよく協議され、万全を期している。今後は、地震に対応した転倒物対策にも目を向けた対策を期待するところである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	“人生の先輩”として、敬意を払い、本人の思いやプライド等を尊重し、尊厳を損なわない接し方に努めています。	このホームでは、「自分がされて嫌なことはしないこと」というポリシーを職員が守ってきている。トイレ介助では「ごめんね」の声掛け、使用中はタオルでカバーする、又、扉やカーテンの外で見守る等を徹底している。107歳の利用者の「必要以外は手を出さないで」という本人のプライドをよく尊重した見守りが行われていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を言いやすい環境作りに努めています。また、本人の思いや希望を言葉だけではなく、顔の表情や行動、しぐさ等から気付くよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当ホームでの暮らしの方針 “本人の生き甲斐” “趣味を大切に” “穏やかに仲良く”を大切に、心身ともに元気で過ごしていただきたいと思っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿った服装や、お化粧品等ができるよう支援して、身だしなみに気を付けています。 理容・美容に出かけることもありますし、定期的に理容師さんの訪問もあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備を一緒に行い、一緒に食事をとり、片付けも手伝っていただけるようにしています。 会話の楽しみを大切に、食事を楽めるようにしています。	主食と一汁はホームで調理し、以外は外食業者から職員がメニューを選択し、三食を利用している。小さい器に品数が多く、丸盆に並べられて京料理の風情を醸していた職員は手弁当で利用者と一緒に本日の食材の中のわらびから話題を発展させながら楽しい雰囲気作りを行っていた。利用者同士の会話も活発な食事風景を見させてもらった。行事食は、利用者と職員と一緒に調理して楽しむ企画もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量を考えながら、バランスの採れた食事を心掛けています。 水分量について、水分量を記録し、脱水にならないよう、注意しています。 嚥下状態で、軟飯や刻み食・水分にトロミをつける等を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き・義歯の洗浄・うがいを、見守り・必要に応じて介助しています。 義歯の方は、夜間、洗浄剤使用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けを行う等の支援を行っています。	利用者の中には、座位がとれないオムツ使用者が2名、それ以外は声かけ誘導でトイレ排泄を維持できている。気持の良い排泄をしてもらえるよう、一人ひとりのパターンを把握した支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因になる、“食物繊維不足”“水分不足”“運動不足”“精神的ストレス”等 を注意し便秘防止に日々努めています。 また、医療機関とも連携し、服薬等で便秘 予防されている方もいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日できるようにしています。本人の希望やタイミングで入浴していただけるようにしていますが、現在、人手不足もあり、午後からしか入浴できないので、できれば、いつでも入浴していただけるような職員体制をつくりたいです。	本人の希望を重視しているが、特別を除き、隔日に交替で入浴する形が定着している。リフト付きの浴槽が完備しており、危険度の高い利用者には二人で対応する両ユニットの協力体制が整っており、危険回避を配慮した対応に、利用者は安心の中で楽しい入浴を実現している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は自由にいただいています。 日中、一人ひとりの生活習慣等で活動していただき、夜間、ゆっくり休んでいただけるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的や副作用について理解しています。症状の変化についても注意しています。 服用している薬のファイルもあります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や個性、役割や楽しみごとを把握し、それが出来るよう支援しています。 唱歌・食器拭き・体操・草取り等・・・。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	「外出したい」と希望あれば、希望が叶えられるよう、柔軟にホーム外に散歩やドライブ・近所のスーパー等に出かけています。	田園の中の道路は格好の散歩コースになっている。向いの保育園からは可愛いらしい姿や声が届き、外出気分を誘われる環境に恵まれている。芝生の中庭や、広々とした玄関先にベンチが備えてあり、そこでお茶タイムや歌を歌ったり等、日常の楽しみ方となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持され、どこに置いたか分からなくなり、紛失されてしまうことがあり、原則、お金の所持はお断りしています。ただ、自分で金銭管理ができる方については、自分で管理してもらい、買い物時に支払っていただくことは可能です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をしたいと希望あれば、状態を見て実施しています。本人から手紙までは書いていませんが、年賀状は書くよう進めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節の花、入居者・職員で作成した壁掛けを飾っています。 温度調節、入居者が過ごしやすいよう、その都度調節しています。生活音・臭い・ブラインドの位置等にも配慮しています。	テレビを中央に置いたソファコーナーは広々としており、利用者はゆったりと寛いでいた。壁面は利用者の作品が程良く展示しており、落ち着いた雰囲気である。食卓では、新聞を読む人、利用者同士の会話を楽しむ人、童話を読む人等に職員がよく目を配り、必要に応じたコミュニケーションでリビングは活気あふれ、利用者は「友達ともよく話があって、穏やかで申し分ないです」と居心地良さを話されていた。昨年は、職員が窓辺にゴーヤのグリーンカーテンを作り、室内に潤いがあったようだ。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ポーチや芝生の上で思い思いのお話しが楽しめるよう配慮しています。 リビングでもひとり好きなことが没頭できる配慮の工夫もしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や、家族写真等、本人が馴染みの物を置くよう家族に協力いただいています。	各部屋に加湿器、手洗いの設置がある。利用者の馴染みの物を持ち込み、家族と担当職員が配慮した暖かい部屋作りが出来ていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう、ベッドや椅子の置く位置を工夫しています。 また、部屋・トイレ・風呂場等には、暖簾や目印になるものを取り付け、自分で判断できるようにしています。		